

「シマ思考」で学ぼう!

佐渡島 & 東京の実践レポ

佐渡島 / 新潟

学校蔵の特別授業で深める 「世界の見方を変えるシマ思考」

6月、佐渡島で「世界の見方を変えるシマ思考」をテーマに「学校蔵の特別授業」が開かれました。学校蔵は明治25年創業の老舗酒蔵尾畑酒造が廃校を酒造場と交流・学びの場として再生させた学び舎。豊かな自然や文化に恵まれている一方、人口減少などの課題も抱える「日本の縮図」ともいえる佐渡から、日本の未来を考えることができないか? という問いが出発点の、いわば「シマ思考」のパイオニアです。

特別授業は『里山資本主義 日本経済は「安心の原理」で動く』の著者・藻谷浩介さんを中心に、養老孟司さんなどのゲストを招き開催されてきました。2024年のゲストは、東京大学社会科学研究所教授の玄田有史さん、京都精華大学全学研究機構長のウスビ・サコさん。島内外から集まった生徒70人が学校蔵の教室に集結しました。

藻谷さんと玄田さんによる「限界集落の限界」、玄田さんとウスビさんが語る「関係人口の正体」、ウスビさんと藻谷さんの「島国根性のススメ」と授業が続くなか、ウスビさんの故郷マリには、シマの青年団のような「グレン」と呼ばれる幼馴染のコミュニティがあり、親戚同士が江戸時代の長屋のような家で暮らしていると聞き人類の普遍的な幸せって、やっぱりシマにあるのでは……と思いがめぐります。

今回の特別授業では、たくさん

論を示すことはなく、授業を終えた頭の中では思考がぐるぐる、問いはモヤモヤとした霧の中。そんな生徒たちを尻目に、3人の先生方は笑顔で去っていくのでした。

未来は自身の手でつくるものであり、ひとつの正解はありません。モヤモヤの答えは持ち帰り、各々の暮らしの中で「自分なりの答えを探さない」ということなのかしら……。あれっ、これぞまさしく「シマ思考」実践への導きでは?!

学校蔵の特別授業を楽しみに来島するリピーターも多く、常連さんの中から運営をお手伝いするサポーターも生まれているとのこと。10年以上にわたり培われてきた、学びのコミュニティの力と「シマ思考」をたっぷり体験できました。

